

□ 書 評 □

編集：東京大学医学部サーモグラフィ研究会

「医用サーモグラフィ図譜」

東京大学医学部医用電子研究施設教授

大 島 正 光

最近の医学の分野における計測法の発展の中で注目されているものの一つにサーモグラフィがある。

“Optoelectronics”に属するこの新しい計測法は、これまでの生体の温度についての考え方を大きく変換させてしまったといっても過言ではなからうと思われる。温度分布が画像としてX線像のように、また最近では色の分布として認めることができ、しかもそれが遠隔で短時間内にキャッチできるところにこの方法の特徴があるといってもよいであろう。研究会の代表である渥美和彦教授はその序文の中で、研究会が数年にわたりとった約4,000枚のサーモグラムの中から代表的なものを選んでこの図譜をつくりあげたと述べている。サーモグラフィの初期の開拓を行ってきたこの研究会のメンバーの努力が、ここにみのったものであるといってもよいであろう。この図譜はつぎの内容から成り立っている。

序論としては、Ⅰ.はじめに、Ⅱ.原理と装置、Ⅲ.撮像時の注意、から成り、正常人のサーモグラムとしては、Ⅰ.正常人の身体各部のサーモグラム、Ⅱ.正常人の種々の条件下でのサーモグラムであり、各種疾患例のサーモグラムとしては、Ⅰ.妊娠時のサーモグラム、Ⅱ.腫瘍のサーモグラム、Ⅲ.脈管疾患のサーモグラム、Ⅳ.炎症性疾患のサーモグラム、Ⅴ.神経系疾患のサーモグラム、Ⅵ.リウマチ性疾患のサーモグラム、Ⅶ.その他、となっている。この内容からもわかるようにサーモグラフィの主な臨床的応用の分野はこの図譜の内容の示すような領域であるといってもよいであろう。しかしこの応用の領域は今後ますます拡大されてゆくものと考えられる。

この図譜はその名の示すように、各種疾患について臨床所見と図譜とが対照されるような形でまとめられている。人間は visualizing man であるといわれているが、画像として

示されているサーモグラムはまさに一目でその病変の位置とその性質とを示しているように迫力をもって見るものに迫ってくる感じがある。そこにサーモグラムの特徴があるといってもよいものであるが、医用診断の上に新しい分野をきりひらいた方法としてのサーモグラフィの方法と臨床応用の指針が、これ程はつきりと示されたことは、ここに長年に亘るサーモグラフィ研究会の努力に対し敬意を表さずにはおれない。これからサーモグラフィを応用してみたいという臨床家にとってはよい指針としてこの図譜が役立つであろう。

この図譜がサーモグラムをそのままのせているだけでなく、わかりにくい画像については線図でも示しているので画像をみるものにとってはわかりやすくなっている。画像は良質紙を用いているのではつきりうつし出されていることもこの図譜のよい特徴としてあげることができる。この図譜については将来の補遺を約束しているので、今後より多くの図譜が追加されて、サーモグラフィの臨床応用の指針としてあるいはその辞典としての役割をはたすことを期待したいと思う。

B5判, 252頁, 図137

写真235・¥6,800 千170

医学書院刊